2024 年度　長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	社会調査法（Social　Research　Method ） 2036-0-33-081					担当教員	瀧波　慶信 （タキナミ　ヨシノブ）		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	3 年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型ＡＬ／協同学習型ＡＬ／資格対応科目								

①　授業のねらい・概要
社会調査の基本的事項を習得することにより、変動する社会の状況や課題を理解する。 さまざまな社会調査についての歴史、目的、方法論について学ぶ。
②　ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力／情報収集・分析力を養う／職業人として通用する能力
③　授業の進め方・指示事項
基本的に講義形式であるが、学生自らが資料等の調査・分析をすることが必要。
④　関連科目・履修しておくべき科目
特になし。
⑤　テキスト（教科書）
テキストは指定しない。各回、レジュメを配布する。
⑥　参考図書・指定図書
河合雅司（2020）『未来を見る力 人口減少に負けない思考法 』PHP 新書
⑦　評価Ａに対応する具体的な学習到達目標の目安
（ⅰ）地域の経済について考える視点を身に付ける。 （ⅱ）社会調査の意義を理解することができる。 （ⅲ）社会調査により諸課題解決の方策を提言できる。

⑧　ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
（ｉ）地域の経済動向	自分自身の目でまちを含めた地域の課題を発見することができる	資料等を参考に諸課題の発見ができる	見聞きした諸課題を理解できる	見聞きした諸課題が理解できない	諸課題について考えることをしない
（ⅱ）社会調査の意義を理解する	社会調査の方法を用いて諸課題について検討できる	社会調査の意義を理解できる	社会調査の意義を理解しようとする態度はある	社会調査の意義を感じることはできる	社会調査の意義を考えることができない
（ⅲ）社会調査による諸課題解決に向けて	社会調査により現実の諸課題について理解し、解決策を提言できる	社会調査により現実の諸課題について理解できる	現実の諸課題についての理解が不十分	現実の諸課題について理解しようという態度は見受けられる	現実の諸課題について全く理解できない

⑨　学習到達目標（評価項目）	定期試験（レポート含む）	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加･意欲	その他	合計
総合評価割合	50%			20%	30%		100%
（ｉ）地域の経済動向の理解	10%			8%	10%		28%
（ⅱ）自分のまちの経済と行政	20%			8%	10%		38%
（ⅲ）地域経済の振興	20%			4%	10%		34%
フィードバックの方法	自分の住む地域の時事問題を毎回提示させる。						

⑩　担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
日頃から身近な社会の出来事に関心を持って生活しよう。

⑪　授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	ガイダンス	授業の概要、進め方	90 分
2	社会調査の歴史	社会調査のための基礎理論	90 分

3	社会調査に必要な倫理	社会調査に求められる倫理	90 分
4	社会調査の目的①（問題意識）	問題意識を持つ	120 分
5	社会調査の目的②（目的）	調査の目的を考察	120 分
6	社会調査方法論①（郵送）	郵送調査の理解	120 分
7	社会調査方法論②（面接）	面接調査の理解	120 分
8	社会調査の実例①（量的）	量的調査の理解	120 分
9	社会調査の実例②（質的）	質的調査の理解	120 分
10	社会調査の実例③（統計的）	統計的調査の理解	120 分
11	社会調査の実例④（事例）	事例研究法の理解	120 分
12	さまざまな社会調査①（公的機関）	公的機関の調査の考察	120 分
13	さまざまな社会調査②（学術調査）	学術分野の調査の考察	120 分
14	さまざまな社会調査③（世論調査）	世論の調査の考察	120 分
15	まとめ	社会調査の計画に向けて	120 分

⑫　アクティブラーニングについて
講義の終盤に、振り返り用紙を配付し、各自が本時のまとめを記入する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬　実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性